

この冊子を手にとったあなたへ……

20世紀後半、人々の多くは病院で最期を迎えるようになりました。

医療の進歩で寿命は伸びたのですが、健康こそがすべて……とでもいうのでしょうか、病気を持った人たちにとっては、決して住みやすい社会であるとはいえなくなっています。

また、根本的に病気を治す方法はもうない、と医師に言われてしまった人たちは、社会から見捨てられたも同然となって、途方にくれてしまいます。

一方、そんな人たちを放っておけないと“人間らしさ”を求める運動が始まりました。どんな時にも決して、あなたを見放さない、見捨てない、一人にさせない、それが、ホスピス運動です。

ホスピスというと、まず、特別な病棟や施設を連想します。けれども、ホスピスは本来、“あなたらしく生きることをお手伝いすること”そのものを意味します。

手術などの積極的な治療は、確かに病院でないとできません。

しかし、残された時間を自分らしく生きていくことは“家でもできる”のです。

それが、この冊子の紹介する「在宅ホスピスケア」です。

急に病状が悪くなった時は？ 独り身だし？ 家は狭いし？ 家族に迷惑をかけてしまう？

そういった不安が先立つでしょう。でも最近では、地域ごとに進み具合に差はありますが家でも病院と同じようなサービスが受けられるようになってきています。

病棟ホスピスはがんでないと入院できませんが、在宅ケアにはそんな制約もありません。

しかも、家では、あなたとあなたの大事な人たちが主役です。

健康な時は、自分自身や自分の大事な人の障害、病気……まして死など、

とても考えられないし、縁起でもない。

しかし、今生きている人すべてに、いつかその時は訪れます。

この冊子は、「住み慣れたところで最期まで」と願う人たちへの道しるべです。

CONTENTS 目次



- ① 家にかえりたい。かえしたい。…………… P1～2
- ② 家にかえりたいと思ったら…………… P3～4
- ③ 利用できるサービスと探し方…………… P5～6
- ④ とっても大事な医療制度とお金のはなし…………… P7～8
- ⑤ ただいま。おかえりなさい。…………… P9～10
- ⑥ あなたへ…………… P11～12
- ⑦ あなたの大事な人たち…………… P13～14
- ⑧ どうしよう！…………… P15～16
- ⑨ ちょっとしたアイデア…………… P17
- ⑩ それぞれの場面…………… P19～22
- ⑪ 旅立ち(旅立ちまでの体の変化 P25)…………… P23～25
- ⑫ 悲しみ…………… P26
- ⑬ 家でもだいじょうぶ…………… P27～28